

一般演題口演 | 一般演題：急性中毒

2024年7月18日(木) 14:00 ~ 15:20 第11会場 (宝山ホール 3階 第5会議室)

[O3] 急性中毒

座長:大谷 典生(聖路加国際病院 救急部・救命救急センター)、伊関 憲(福島県立医科大学医学部 救急医療学講座)

14:21 ~ 14:28

[O3-04] イメグリミンを過量内服した1例

*倉井 毅¹、田中 保平¹、本村 太一¹、新保 雅大¹、杉田 真穂¹、由井 憲晶¹、石橋 尚弥¹、山根 賢二郎¹、藤屋 将眞¹、渡邊 伸貴¹、新庄 貴文¹、松村 福広¹、伊澤 祥光¹、米川 力¹、間藤 卓¹ (1. 自治医科大学 救急医学講座 / 救命救急センター)

【序文】 イメグリミンは新規の血糖降下薬であり他剤での血糖コントロール不良例に対して併用処方されている。【症例】 47歳女性。既往は2型糖尿病。イメグリミン13,000mg(常用量2000mg/day)をメトホルミン750mg、ミチグリニド30mg、ボグリボース0.6mgなどの常用量の薬剤とともに服用して救急搬送された。病着時、意識清明、呼吸循環動態は保たれていたが、血液検査でpH 6.977、Lactate 16.0 mmol/Lと乳酸アシドーシスを認めたため入院となり全身管理のうえ補液と炭酸水素ナトリウムの投与を開始した。翌日には乳酸アシドーシスが改善し全身状態良好のため当院精神科へ転科した。【考察】 渉猟し得た限り臨床試験でのイメグリミンによる乳酸アシドーシスの報告はなく、またイメグリミンの過量内服の報告もない。しかしイメグリミンはメトホルミンと一部共通した作用機序を持つため、過量内服した場合は乳酸代謝経路に影響を及ぼす可能性も否定できないが、その他の併用・要因の影響も否定できず、今後の解明がまたれる事例となった。【結後】 イメグリミンを過量内服し乳酸アシドーシスを呈した症例を経験した。